

(件名) ゆたかな学びの実現・教職員定数改善をはかるための、2025年度政府予算に係る意見書採択の請願について

<請願趣旨・理由>

学校現場では、貧困・いじめ・不登校・教職員の長時間労働や未配置など解決すべき課題が山積しており、子どもたちのゆたかな学びを保障するための教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが困難な状況となっています。ゆたかな学びや学校の働き方改革を実現するためには、加配教員の増員や少数職種の配置増など教職員定数改善が不可欠です。

2024年8月27日に答申された「『令和の日本型学校教育』を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について」においては、学習指導要領の内容の精選等は今後の検討とし、部活動の地域移行で挙げられている課題の解決などにはふれられていません。また、教職員定数改善について、小学校における教科担任制の充実にむけた定数改善等が示されていますが、鹿児島県においては67人にとどまり、その効果がすべての小学校へ波及している状況にはありません。さらに、現在、小学校においてすすめられている35人学級の中学校での実施についても言及されていますが、実施の見通しは立ってはいません。

一方で、教員採用試験の受験倍率の低下や離職者・病気休職者の増加等、学校現場は慢性的な人員不足状態にあり、学校における働き方改革をすすめるためにも教職員定数の改善は喫緊の課題です。

こうした観点から、2025年度政府予算編成において下記事項が実現されるよう、地方自治法第99条の規定にもとづき国の関係機関への意見書提出を請願いたします。

記

1. 中学校・高等学校での35人学級を早急に実施すること。また、さらなる少人数学級について検討すること。
2. 学校の働き方改革・長時間労働是正を実現するため、小学校における教科担任等の加配教員増や少数職種の配置増など教職員定数改善を推進すること。
3. 複式学級を解消すること。
4. 特別支援学級籍の子どもを交流学級でも在籍児童生徒数としてカウントすること。